

息苦しい肺気腫に補中益気湯を処方

Q 七十八歳、男性。身長一六八cm、体重四五kg。

昔肺結核で胸郭形成術の手術をしました。一〇年ほど前から坂道を上るとどきどき・息切れがします。

一年中マスクをしていないと、すぐにかぜをひきます。気管支炎をよく起こし、入院すると酸素吸入が必要になります。肺気腫（はいきしゅ）との診断を受けています。

「台の微熱が出る」などつらい状態を書いている。

体重減少が目立っており、消化器の機能も落ちている。

このような状態に最もよく使われる漢方薬は消化器・呼吸器を中心に全身の活力を補う補中益気湯（ほちゅうえつきとう）である。また、薬用人参・黄耆（おうぎ）などで全身の活力をつけ、呼吸機能を賦活する。

もしせきが多ければ、これに五味子（ごみし）や麦門冬（ばくもんどう）などを加える。肺気腫による日常生活の制限を緩和するのに有効な漢方薬の種類は少なくない。

もし胃腸が丈夫な方なら、八味地黄丸（はちみじおうがん）を、胃腸の弱い方には真武湯（しんぶとう）などを併用するとさらによい。

A 質問者は息苦しい感じを「空気が肺に入っていないか」と感じ。食事をするだけでも息苦しくなり、頭から汗がたらたらと流れ落ちる」と述べている。また、「食べ過ぎると、おなかが大鼓のようにガスがはって苦しくなり、横にならなければいけない」「夕方になるといつも三七度